

平成27年度 長野県上田高等学校入学式 式辞

山嗤う — 俳句における春の季語ですが、冬の厳しさに耐えた山々の草木が、春の到来を喜び、まさに笑うがごとく、一斉に芽を吹き、動き出す季節を迎えました。

この、すべてのいのちが輝く今日の佳き日に、日頃から本校に格段のご配意をいただいておりますご来賓の皆様並びに保護者の皆様のご臨席を賜り、平成27年度長野県上田高等学校入学式を挙行できますこと、誠にありがたく、まずもって厚く御礼を申し上げます。

ただいま入学を許可いたしました、全日制323名、定時制31名の新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

本校は、真田信之以来の歴代上田藩主居館跡地にあり、皆さんが今朝くぐってきた本校正門は、藩主居館の表御門として使われていたもので、塀、濠、土塁をあわせて、上田市文化財に指定されています。

今朝は、その門を囲うようにして、例年より早く開いた桜の花が、今年の入学式を祝うかのように、彩りを添えています。

本校は、変則中学校・中学校支校等を経て、明治33年、西暦1900年に長野県上田中学校となって以来、今年116期の新入生となる皆さんを迎えた、歴史と伝統に輝く高等学校です。

皆さんは、その本校を志望校と決め、地道な努力を積み重ね、難関を突破して、夢と希望を抱いて、本校に入学して来ました。

ようこそ、上田高等学校へ。

心から歓迎します。

保護者の皆様、本日は、お子様のご入学、誠にありがとうございます。

お子様が、本校での様々な活動を通じて、自ら人生を切り拓いてゆく力を身に付けられるよう、私ども教職員一同、全力を尽くしてまいりますので、何卒本校の方針をご理解いただき、ご支援とご協力を賜りますとともに、よりよい学校を共に創るパートナーとして手を携えてくださいますよう、お願い申し上げます。

さて、現代は激動の時代と言われます。

アメリカ、デューク大学のキャシー・デビッドソン氏は、2011年8月、ニューヨークタイムズ紙のインタビューで、「2011年度にアメリカの小学校に入学した子どもたちの65%は、大学卒業時には、今は存在していない職業に就くだろう」と語り、大きな反響を

呼びました。

また、現代はグローバル化の時代と言われます。

ある国のある場所で起きたことが、インターネットを通じて瞬時に世界中に共有され、リーマンショックに代表されるように、一つの国の出来事が全世界に影響を与える時代になりました。

このような時代にあって、本校は、国際的素養を持ったグローバル・リーダーの育成を目的とした、文部科学省のスーパー・グローバル・ハイスクールの指定を、今年度から5年間にわたって受けることになりました。

新入生の皆さんは、これまでの本校の伝統である「文武両道」「自学自習」に加えて、激動の時代、グローバル化の時代を雄々しく乗り越えていける、21世紀型の学力と豊かな感性を身に付けるべく、これからの3年間、あるいは4年間、毎日古城の門をくぐり、この学校に通うことになります。

その一日一日、一時間一時間の学びが、皆さんにとっての血となり肉となること、そしてその結果、皆さんが、大きな志を抱き、自分の意志で学び、自分の頭で考え、自ら決断し、仲間とともに勇気を持って行動できる、そんな力を身に付けて、本校を巣立っていくことを願って式辞といたします。

平成27年4月4日 長野県上田高等学校長 内堀 繁利